

解説

推進工事に関わる資格制度

ヤスタエンジニアリング編

■ 若手

シャイン・テツ・アイン

ヤスタエンジニアリング(株)
技術開発部

■ 中堅

ひらい さとる
平井 寛

ヤスタエンジニアリング(株)
建設事業本部係長

■ ベテラン

たにのき てっし
谷之木 哲治

ヤスタエンジニアリング(株)
建設事業本部工事部課長

若手

外国人として推進工事に携わる

1 はじめに

私はミャンマーの技術大学の機械科を卒業後、高度な技術と専門知識を学ぶために、さまざまな先進国へ就職を検討しました。ヨーロッパやアメリカへ行くのはお金も高く文化の違いが大きいと感じていました。アジアの国では日本は他の国とは違い、自国と古くからのつながりがあり、文化も近いという印象でした。さらに、日本は人権や民主主義を重んじており、ミャンマー人である私は日本をリスペクトしていました。その時から私は自分の子供も豊かな平和を謳歌させるため、日本で育てたいと考えていました。それで、海外で就職するなら日本が一番良いと決心しました。日本での就職には日本語力が不可欠であると考え、まず留学を決意しました。日本では、自分の目標である就職活動を中心に取り組み、建設業に携わることを目指しました。

私が建設業を目指した理由は、将来母国のインフラ整備に貢献したいという強い思いからです。就職先を紹介してくれる会社から推進工事の情報を得ました。推進工法はミャンマーにもある開削工法と比べ、環境に与え

る影響が少なく、高度な技術が求められるため、社会のニーズに合った非常に重要な技術だと感じました。都市部の地下空間を効率的に利用することは、人口が集中する現代社会において不可欠な技術です。

ミャンマーでは、まだインフラ整備が途上であり、こうした技術を学び、将来的に自国の発展に寄与したいと考えています。そのため、多様なプロジェクトで豊富な経験を持ち、革新的な技術を実際に活用して推進工事を行っているヤスタエンジニアリング(株)に入社しました。私は母国で機械学科を学んだ知識と経験を生かし、さらに専門性を高めたいと考えており、技術開発部・設計部の一員として研鑽の日々を送っております。



写真-1 Hmawbi Technological University 卒業式

2 入社後の略歴と印象深かった推進工事

入社した後に体験従事した呼び径3000の島屋北幹線は大規模な下水道工事は特に印象深かった推進工事でした。

このプロジェクトは、鋼管矢板など10箇所以上の鋼製支障物の切削が求められており、技術的な難度は日本初の工事でした。現場の先輩が何度も協議・調整を繰り返しながらチーム一丸となって工事を進めていました。この経験は、私の技術者としての考え方に大きな影響を与えました。



写真-2 現在の部署での仕事
リングモール探査装置出荷前検査



写真-3 現在の部署での仕事
リングモールビット摩耗測定

3 推進工事技士試験の勉強方法

私は入社して4年目です。この業界でキャリアを積みたい私は推進技術の重要性を理解しステップアップを図るためには推進工事技士の資格が必要と考えました。外国人として言語や文化の壁に苦労しながら昨年是一次試験、今年は二次試験をそれぞれは1回で合格することができました。

日本語はまだ上手ではありませんが、試験がすべて日本語で行われるため、日本語の技術用語や施工手順を理解することを最優先として考えました。

まずは(公社)日本推進技術協会発刊の推進工法体系(I・II・III)を読んで勉強をスタートしました。技術的な専門用語や推進施工方法などの理解が難しい時は、上司に質問したりインターネットで調べたりをして勉強しました。上司から教えていただいたことをメモに残し、何度も見返しました。上司のアドバイスやディスカッションを通じて、現場で使われる実際の知識を学ぶことができ、試験対策にも直結しました。それに、推進工事技士試験の過去問題を購入し、それを繰り返し解くことで出題形式や用語に慣れていきました。勉強の他にも実際の現場経験が、テキストや問題を理解する助けになりました。現場での作業を思い出しながら勉強することで、知識が定着しやすく、試験対策もスムーズに進みました。

仕事が忙しい中で、毎日の勉強時間を確保するのは結構大変でした。そこで平日は毎日1時間、週末は3時間を勉強に充てると決めて、計画的に進めました。試験日から逆算して、どの範囲をいつまでに終わらせるか



写真-4 推進工事技士の勉強